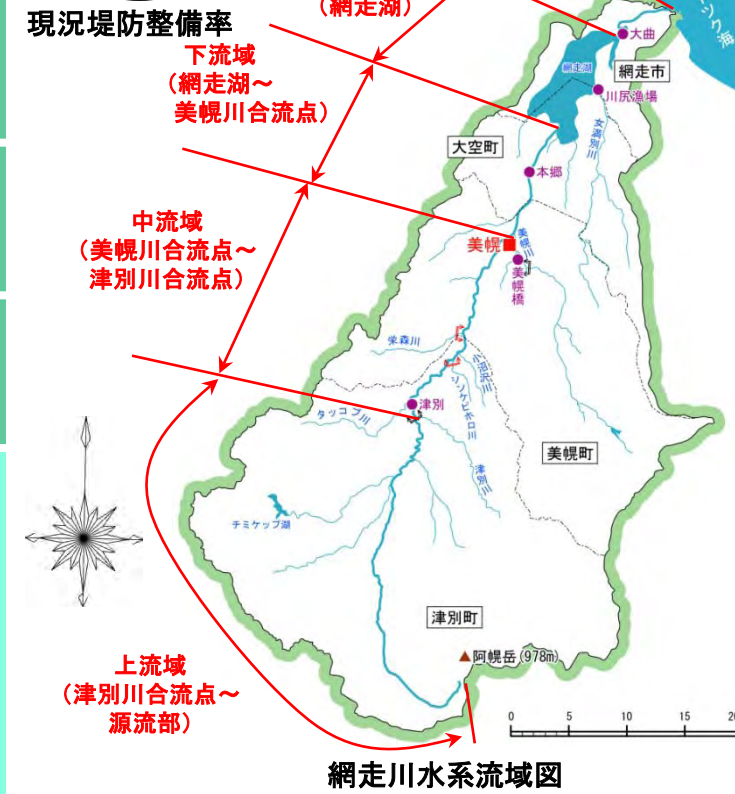
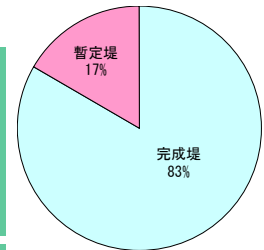
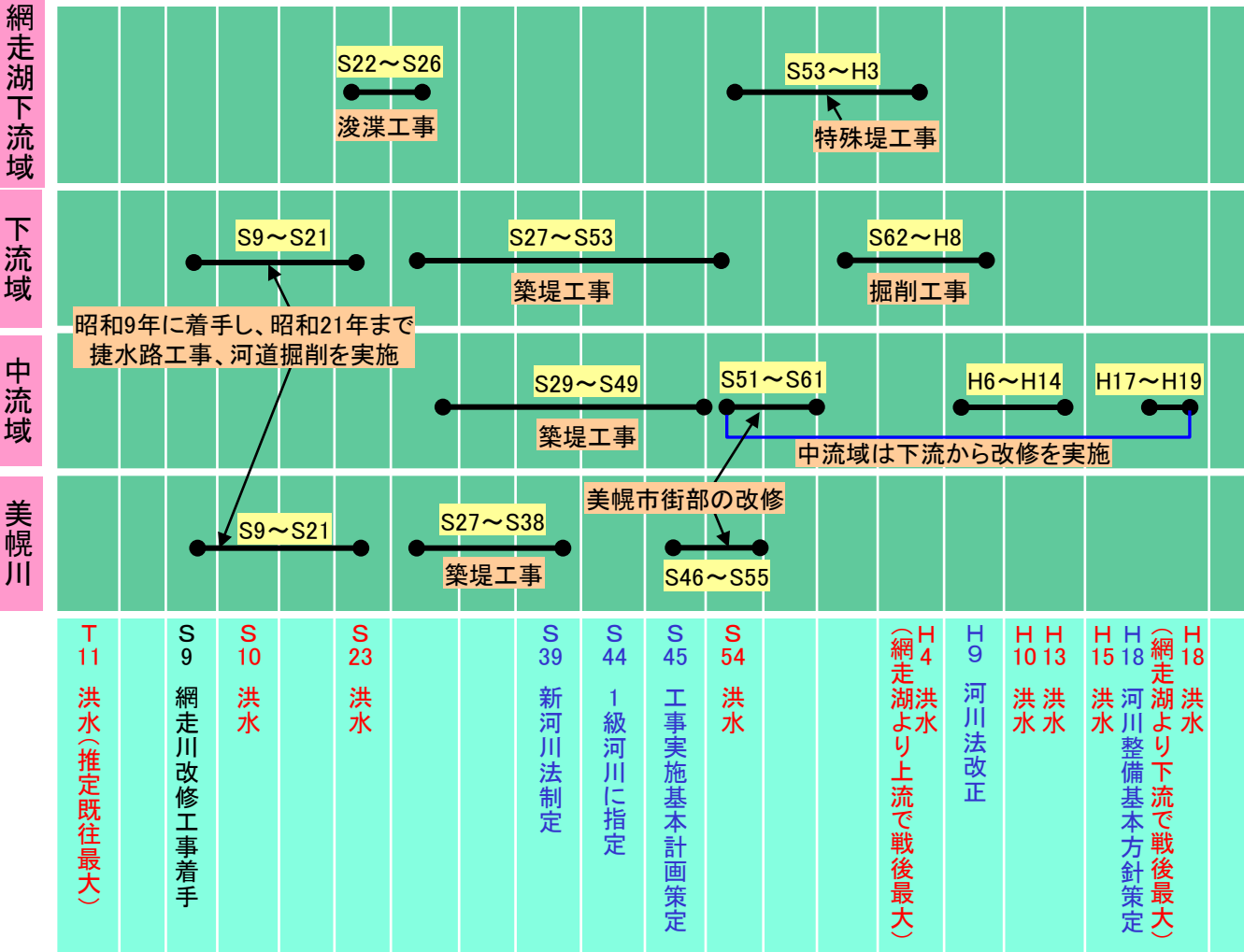


河川整備の現状と課題

治水事業の沿革

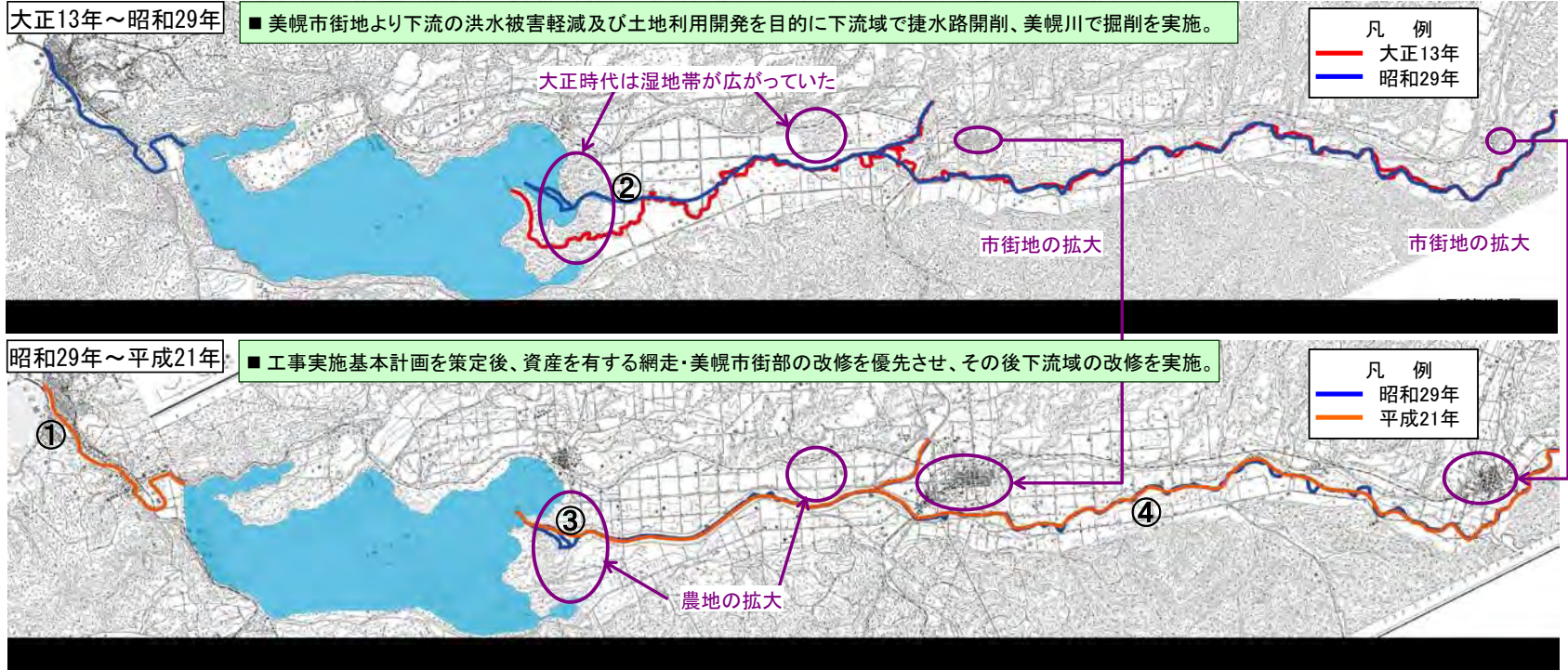
- 大正11年洪水を契機に昭和9年から昭和21年にかけて、下流域の蛇行部の捷水路工事及び美幌川の河道掘削工事を実施した。その後、昭和22年から昭和26年に網走湖下流域の浚渫工事、昭和27年から昭和53年にかけて、下流域、中流域、美幌川の築堤工事を実施した。
- 昭和46年以降、網走湖から上流の改修では、氾濫による背後地への影響（美幌市街）が大きい中流域の美幌市街部及び美幌川から掘削を優先させており、その後下流域の掘削に着手している。

T10 S1 S10 S20 S30 S40 S50 S60 H1 H10 H20



網走川の改修（大正から現在の河道変化）

・網走川の治水工事は、昭和9年から本格的に開始し、これまでに捷水路開削、河道掘削、堤防整備を進めてきた。その結果、湿地帯の土地利用が可能となり、農地、市街地へと発展した。



① 網走湖下流域の特殊堤整備
(中央橋上流右岸)
平成2年撮影



② 下流域捷水路事業
(昭和9年～昭和21年整備)



③ 下流域の河道掘削
(昭和62年～平成5年整備)



④ 中流域の堤防整備
(昭和54年～昭和55年整備)
平成19年撮影

網走川の主な既往洪水

- 平成4年以降大雨の発生頻度が増加しており、美幌地点での24時間流域平均雨量100mmを超える雨が5回発生し、いずれも大きな洪水となって流域に被害を及ぼしている。

洪水名	気象要因	流域平均雨量 美幌地点 (mm/24h)	美幌地点流量 (m ³ /s)	被害状況
大正11年 8月	台風	161	1,200	被害家屋：381戸 田畑浸水：2,500ha
昭和10年 8月	台風	89	—	被害家屋：176戸 田畑浸水：1,233ha
昭和23年 8月	前線	69	—	被害家屋：102戸 田畑浸水：676ha
昭和54年10月	台風20号	96	310	被害家屋：89戸 はん濫面積：795ha
平成4年 9月	台風17号	130	870	被害家屋：322戸 はん濫面積：9,585ha
平成10年 8月	前線	117	430	被害家屋：15戸 はん濫面積：—
平成13年 9月	台風15号	135	640	被害家屋：1戸 はん濫面積：1,124ha
平成15年 8月	台風10号	130	420	被害家屋：— はん濫面積：263ha
平成18年10月	低気圧	139	600	被害家屋：10戸 はん濫面積：246ha

注1) 被害等は、「市町村史」（大正11年、昭和10年、昭和23年）、「北海道災害記録」（昭和54年、平成4年、平成10年、平成13年、平成15年）、「水害統計」（平成18年）の記載より引用

注2) 北海道災害記録による被害等は集計上、支川、内水被害を含む。網走市の被害は流域外も含む

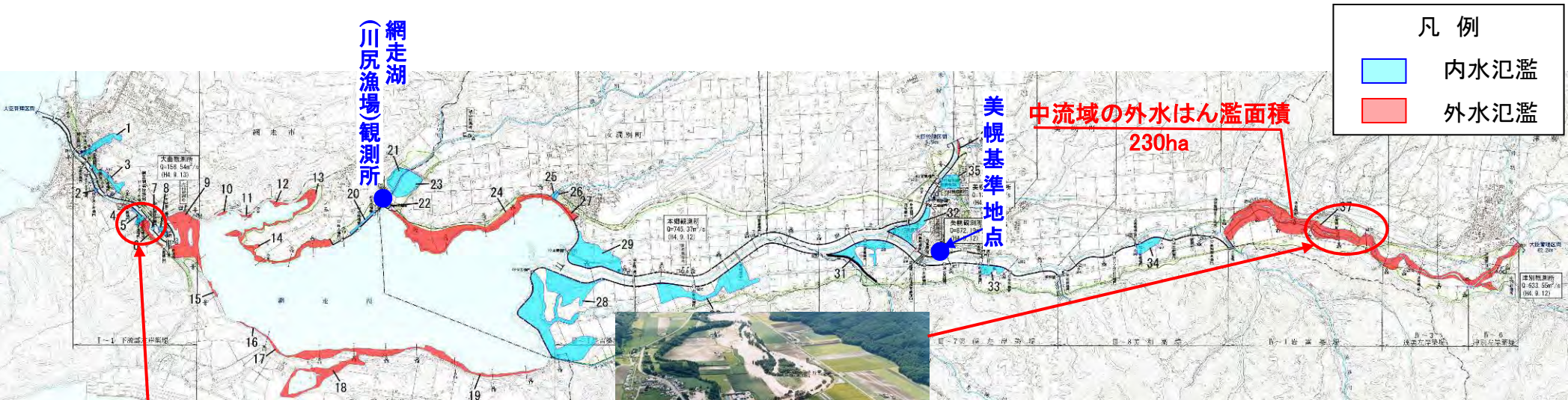
注3) 大正11年8月の美幌地点流量は、痕跡からの推定

注4) 被害状況が文献に記録が無いものについては、—と記載している。

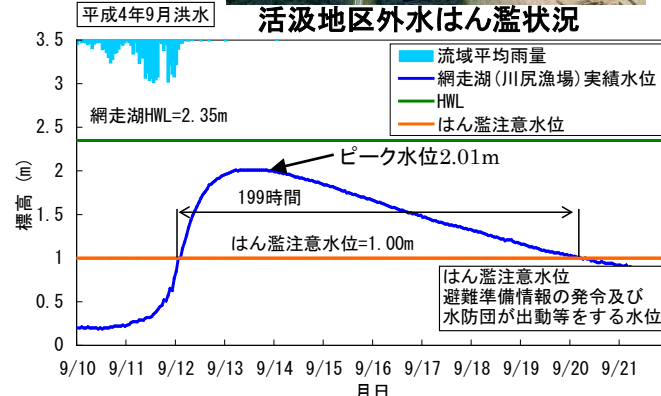
注5) ：美幌地点での24時間流域平均雨量が100mmを超えた洪水

平成4年9月洪水の状況

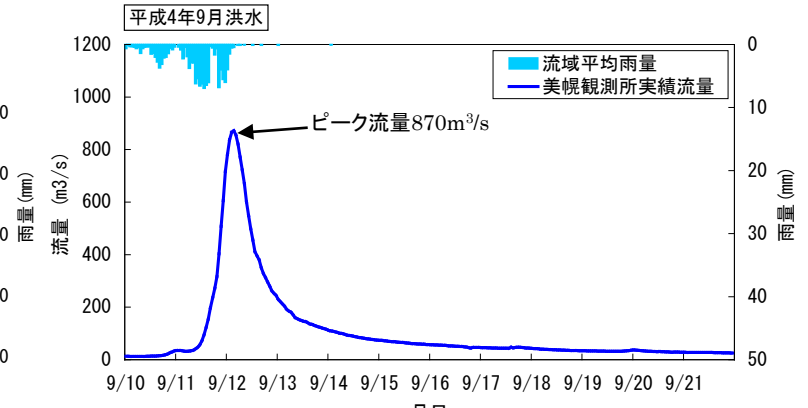
- 美幌基準地点において戦後最大流量870m³/sを記録し、中流域で計画高水位を超え、中流域から網走湖下流域にかけての各所で氾濫被害（中流域の外水はん濫は230ha）が発生した。
- 網走湖（川尻漁場）水位観測所での洪水継続時間（はん濫注意水位を超えた時間）は199時間におよんだ。



網走刑務所浸水状況



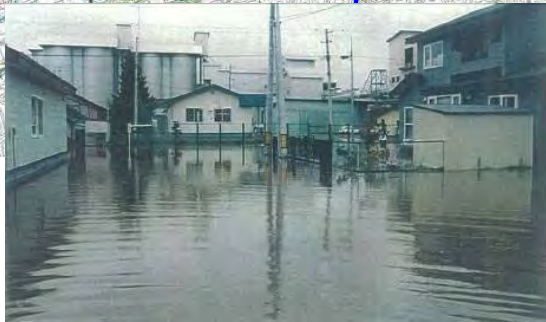
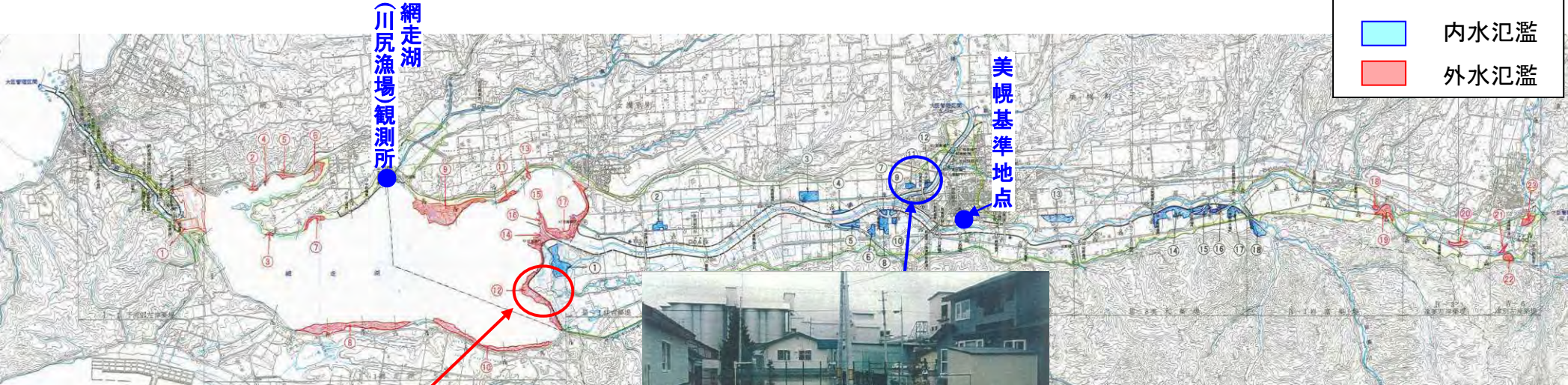
平成4年9月洪水 洪水継続時間(網走湖)



平成4年9月洪水 流量ハイドログラフ(美幌基準地点)

平成13年9月洪水の状況

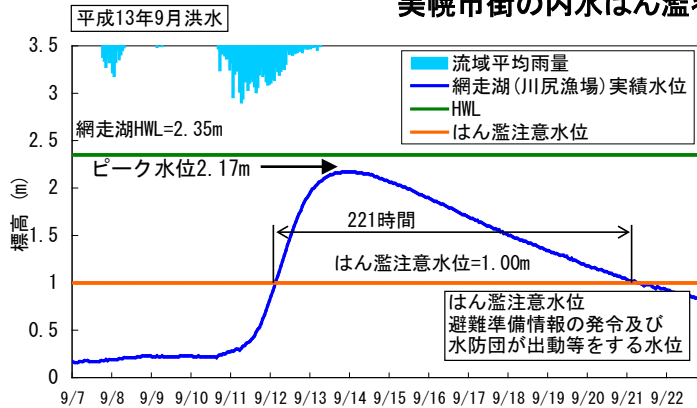
- 平成13年9月洪水では、美幌基準地点及び網走湖（川尻漁場）水位観測所で平成4年9月洪水を上回る洪水位を観測した。
- 美幌基準地点のピーク流量は640m³/s、網走湖（川尻漁場）水位観測所での洪水継続時間（はん濫注意水位を超えた時間）は221時間におよび、周辺の堤防では漏水が発生した。



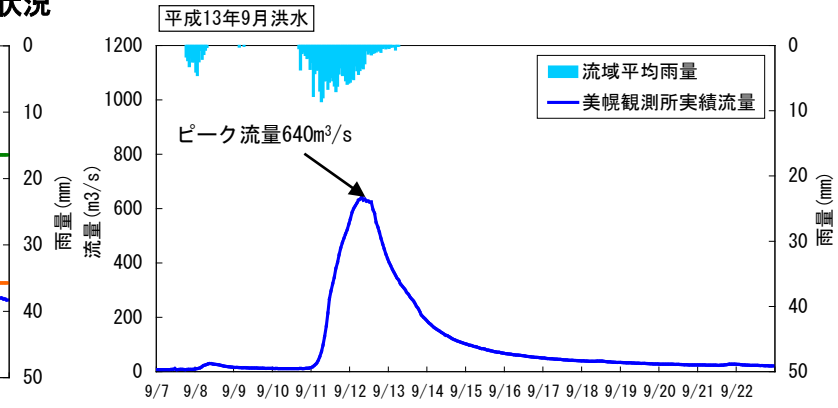
美幌市街の内水はん濫状況



網走湖湖岸堤の漏水時の状況(住吉地区)



平成13年9月洪水 洪水継続時間(網走湖)



平成13年9月洪水 流量ハイドログラフ(美幌基準地点)

平成18年10月洪水の状況

- ・網走湖（川尻漁場）水位観測所で既往最高水位を記録。30時間にわたり計画高水位（2.35m）を超過した。
- ・美幌基準地点のピーク流量は600m³/s、網走湖（川尻漁場）水位観測所での洪水継続時間（はん濫注意水位を越えた時間）は272時間におよんだ。



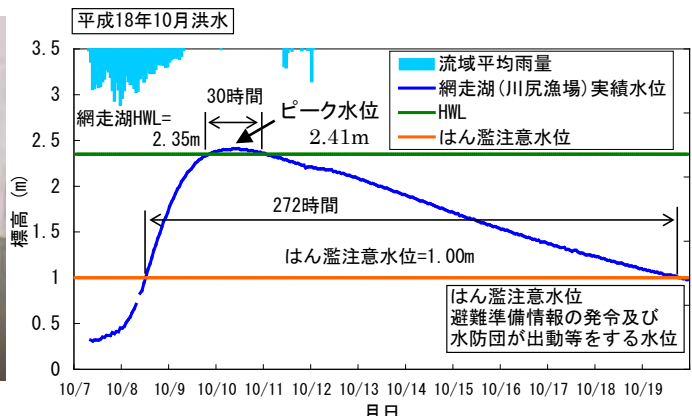
網走湖畔の氾濫状況



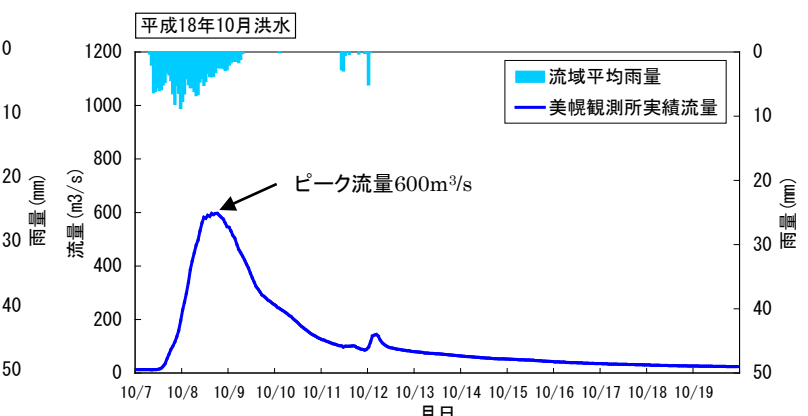
美幌樋門付近の内水氾濫状況



網走湖畔の氾濫状況



平成18年10月洪水 洪水継続時間(網走湖)

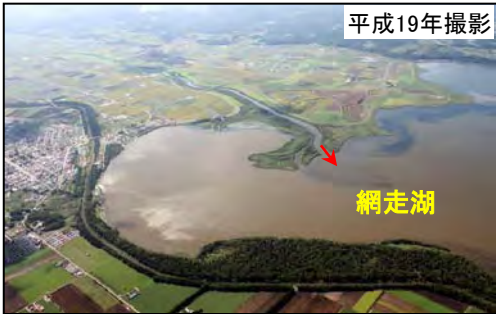


平成18年10月洪水 流量ハイドログラフ(美幌基準地点)

河道特性（網走湖下流域・湖沼域・下流域）




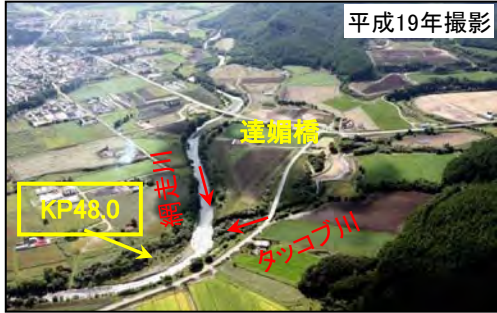


- ・ 網走市街地を貫流する網走湖下流域は、河床勾配が非常に緩やかな区間で、河道は安定傾向である。
- ・ 網走湖は汽水湖であり、洪水時には上流からの流量を自然調節している。
- ・ 田園地帯を貫流する下流域は河床勾配が緩やかな区間で、河道は安定傾向である。

	網走川		
	網走湖下流域 (KP0.0~KP7.2)	湖沼域 (KP7.2~KP18.0)	下流域 (KP18.0~KP28.0)
特徴	・河床勾配は非常に緩やかな区間で、河道は安定傾向である。また、潮位の影響を受けやすく、潮位が高いときは逆流が生じる。	・網走湖は、洪水時には上流からの流量を自然調節している。	・河床勾配は緩やかであり、河道内に砂州が発達し、樹林化が進行している。
代表地点	 <p>平成19年撮影</p> <p>網走川KP2.0付近</p>	 <p>平成19年撮影</p> <p>網走川KP7.2付近(網走湖全景)</p>	 <p>平成19年撮影</p> <p>網走川KP19.0付近</p>
河床勾配	1/5,000	—	1/2000



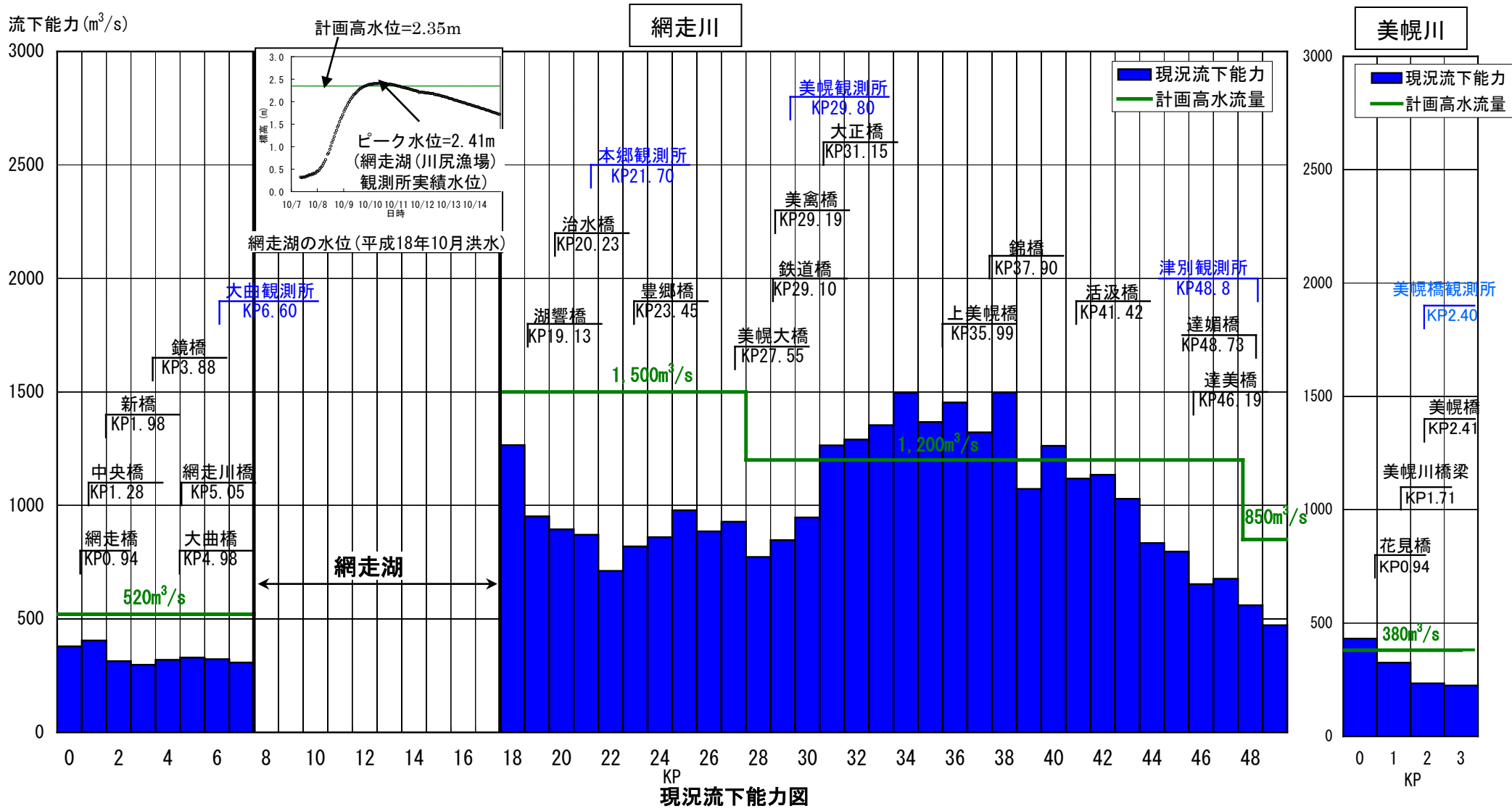
河道特性（中流域・美幌川）

- ・美幌市街地及び田園地帯を貫流する中流域は、下流部と比べ河床勾配が急ではあるが、近年、河道は安定傾向である。
- ・美幌市街地を貫流する美幌川は、河道は概ね安定傾向である。

	網走川 中流域 (KP28.0～KP49.9)	美幌川 (KP0.0～KP3.6)	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ KP28.0～KP33.4の区間は急勾配であるが、河道は概ね安定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ KP33.4～KP49.9の区間は急流区間であり、大部分の区間は岩河床となっており、砂州の発生は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急勾配であるが、河道は概ね安定しているが、河道内に樹木が繁茂している。
代表地点	 <p>網走川KP28.0付近</p>  <p>網走川KP29.0付近</p>	 <p>網走川KP44.0付近</p>  <p>網走川KP48.0付近</p>	 <p>美幌川KP1.0付近</p>  <p>美幌川KP3.0付近</p>
河床勾配	1/500	1/300	1/600

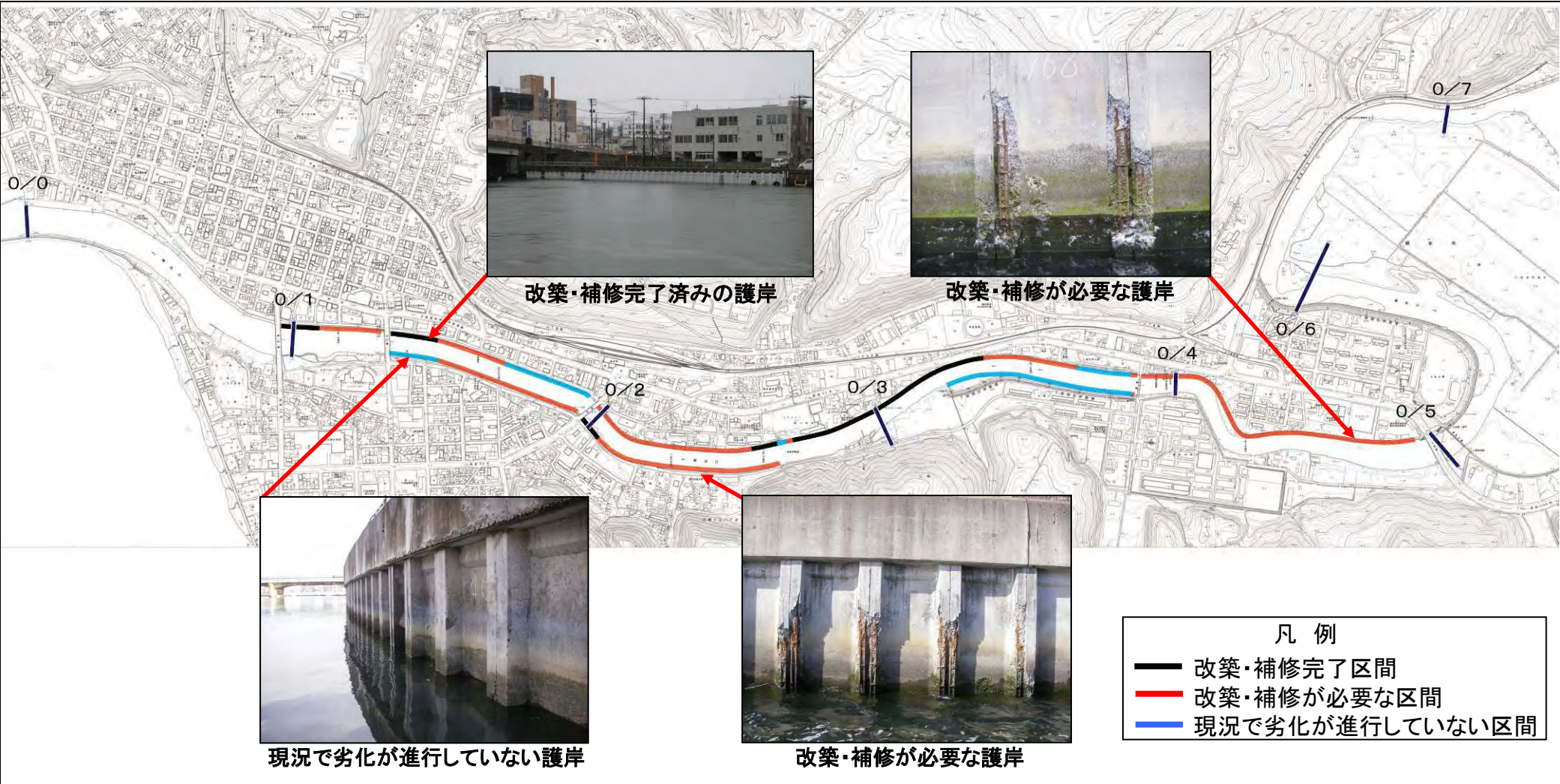
流下能力図

- ・ 網走川及び美幌川では昭和9年より、捷水路開削、河道掘削、堤防整備等の河川改修を実施してきたが、平成4年9月洪水や平成18年10月洪水等では各地ではん濫や計画高水位を超えている。また、計画高水流量に対して流下能力が不足している。
- ・ 網走湖では、平成18年10月洪水において計画高水位を超過した。



維持管理（矢板護岸）

- ・ 網走湖下流域の矢板護岸は、塩害等による護岸の劣化が進行し、過去に挫屈や背面土砂吸出しによる陥没等が発生し、改築・補修を実施している。
- ・ 今後、劣化が進行し、安全度を満たさなくなる恐れがある矢板護岸について早急に改築・補修の対策を実施する必要がある。



矢板護岸の改築・補修対象箇所

維持管理（堤防・樋門）

- 堤防の強度維持や堤防の異常発見のため、堤防の除草を行っている。
- 樋門、樋管等の河川管理施設が長期にわたり最大限の機能を発揮できるようにするため、効率的、効果的な点検、整備を行っている。
- 局地的な集中豪雨時や地震時に津波の遡上が発生した場合、操作人による樋門操作が困難な場合があり、樋門操作の遠隔化や自動化をする必要がある。



堤防除草前



堤防除草後



舟木樋門補修前



舟木樋門補修後(グラウト工)

危機管理体制の状況（内水氾濫）

- 平成18年10月洪水時には、各地で内水氾濫が発生している。
- 2級河川を含め、氾濫箇所にはポンプ車等の災害対策機械を派遣している。



網走川水系美幌川日甜樋門排水ポンプ車稼働状況



平成18年10月洪水における網走管内の排水ポンプ車稼働状況



常呂川北見市 ポンクマ樋門
排水ポンプ車稼働状況
(十分な足場が確保出来ない中での排水作業)



美幌川美幌町市街 稲美樋門
排水ポンプ車稼働状況
(作業場が狭い堤防上での排水作業)



芭露川(2級河川)
排水ポンプ車による排水状況
(網走開発建設部より派遣)

危機管理体制の状況（ソフト対策）

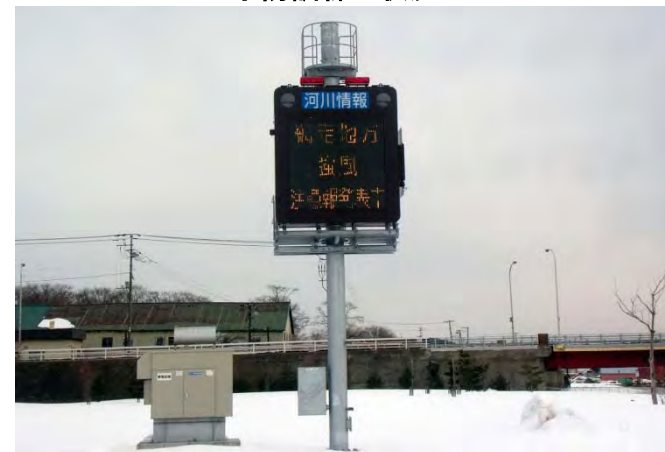
- 流域自治体の洪水ハザードマップは公表済み。今後は洪水ハザードマップの充実、普及促進を支援する必要がある。
- 災害時を想定した水防訓練を関係機関の協力のもと定期的に行っている。
- 関係機関で構成される「水防連絡協議会」を定期的に行い、連絡体制の確認、重要水防箇所の合同巡視を行っている。
- 関係自治体や地域住民及び河川利用者への速やかな情報の提供を行うため、洪水・津波警報を周知するサイレン等の情報提供施設の充実を図る必要がある。



ハザードマップの公表(網走市美幌町)



水防訓練の状況

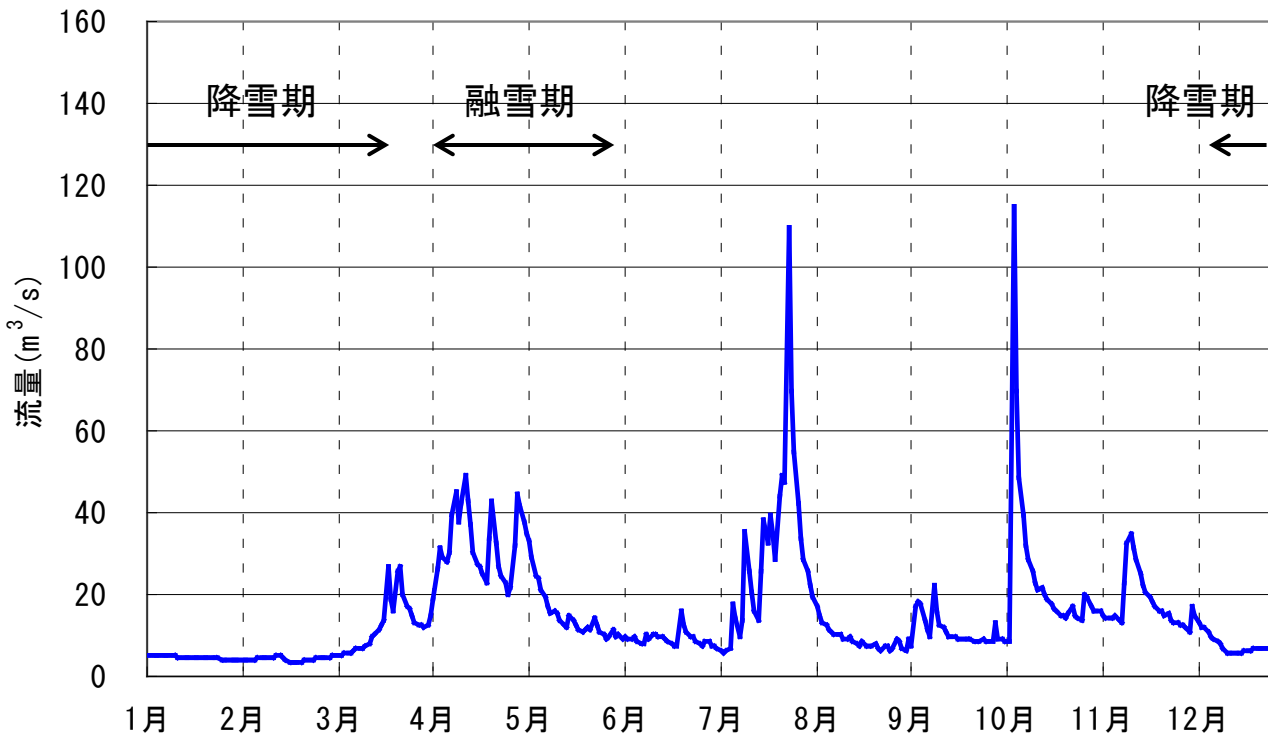


津波警報等を知らせる河川情報掲示板

- ・ 網走川では、**計画高水流量を安全に流下できない区間**がある。
- ・ 網走湖は、洪水時に湖水位の高い状況が長時間続くため、**湖水位を計画高水位以下に低下させる対策**が必要である。
- ・ 網走川中下流域及び美幌川の河岸には、ヤナギ等の**樹林化による河積阻害**が生じるため、**河道内樹木を適切に管理**する必要がある。
- ・ 網走湖下流域の矢板護岸は、塩害等による**護岸の劣化**が見られるため、**適正な機能を確保**することが必要である。
- ・ 美幌市街等で内水被害が頻発しているため、**釜場整備等の内水対策**が必要である。
- ・ 局地的な集中豪雨や地震による津波が発生した場合、河川に津波が遡上し、樋門からの逆流等による浸水被害が想定されるため、**樋門の遠隔化、自動化等の対策**が必要である。また、関係自治体や地域住民及び河川利用者への**速やかな情報提供**が必要である。

網走川の流況

- ・ 4月から5月にかけての融雪期が最も流量が豊富。
- ・ 降雪期を含む12月から翌年3月中旬頃までは流量が少なく変動は小さい。

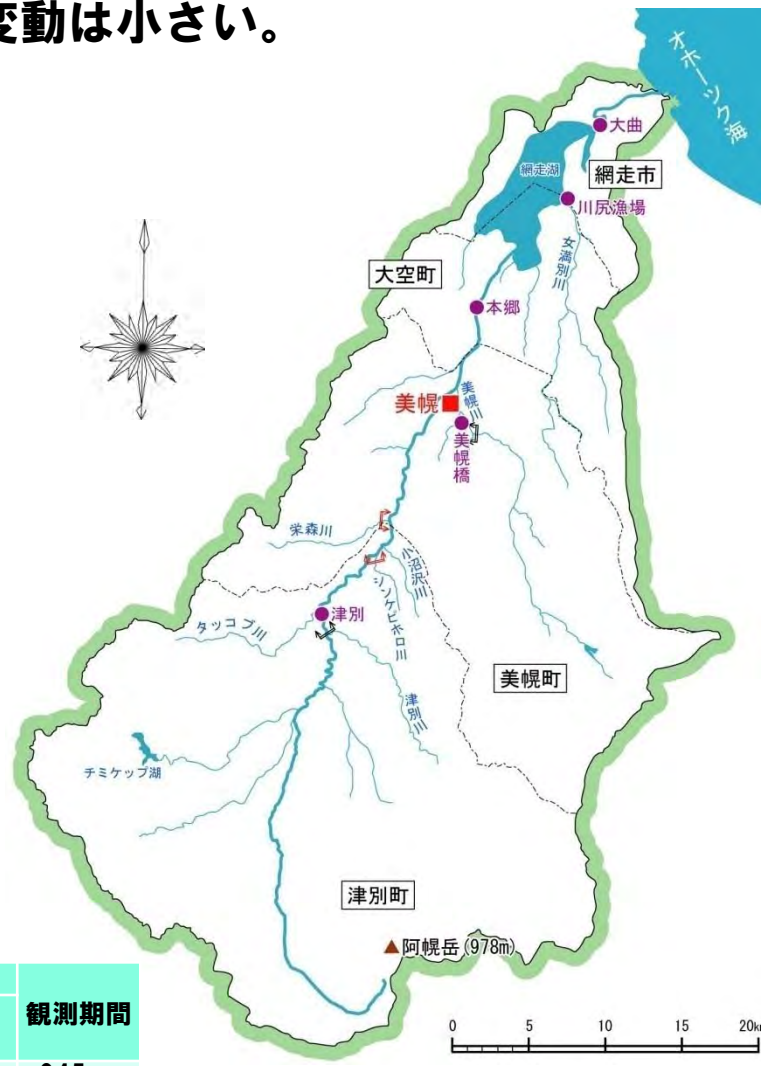


日平均流量の年変化(美幌基準地点：平成21年)

網走川の流況(美幌基準地点：昭和45年～平成21年)

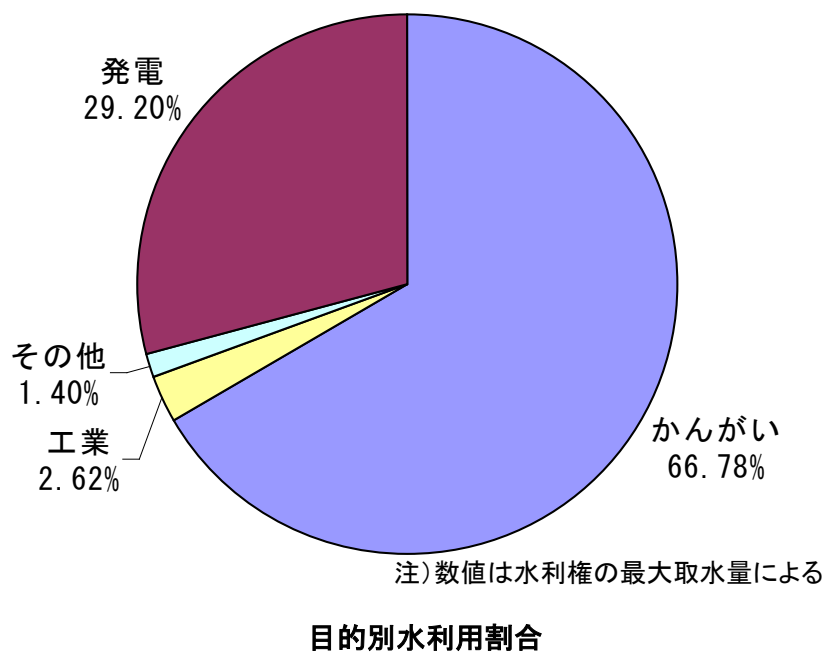
観測所名	集水面積 (km ²)	豊水流量 ^{注1)} (m ³ /s)	平水流量 ^{注2)} (m ³ /s)	低水流量 ^{注3)} (m ³ /s)	渇水流量 ^{注4)} (m ³ /s)	1/10渇水流量		観測期間
						流量 (m ³ /s)	比流量 ^{注5)} (m ³ /s/100km ²)	
美幌	824.4	12.81	8.29	6.11	3.47	1.33	0.16	S45～ H21

1) 豊水流量とは、1年を通じて95日はこれを下回らない流量
 2) 平水流量とは、1年を通じて185日はこれを下回らない流量
 3) 低水流量とは、1年を通じて275日はこれを下回らない流量
 4) 渇水流量とは、1年を通じて355日はこれを下回らない流量
 5) 比流量とは、流域面積100km²あたりの流量



網走川の水利用（水利用状況）

・かんがい、発電、工業用水等として利用されている。



水利用件数と最大取水量

種別	件数	最大取水量 (m ³ /s)
かんがい用水	63	10.818
工業用水	2	0.424
その他	6	0.227
小計	71	11.469
発電用水 (最大取水量)	2	4.730
合計	73	16.199

平成22年4月現在

網走川の水利用（取水・発電施設）

- ・東幹線頭首工、西幹線頭首工、古梅ダムではかんがい用水を取水している。
- ・津別発電所、下津別発電所では総最大出力1,010kWの電力供給が行われている。



田畑に(600ha)かんがい用水を供給する東幹線頭首工



田畑(3,200ha)にかんがい用水を供給する古梅ダム



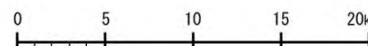
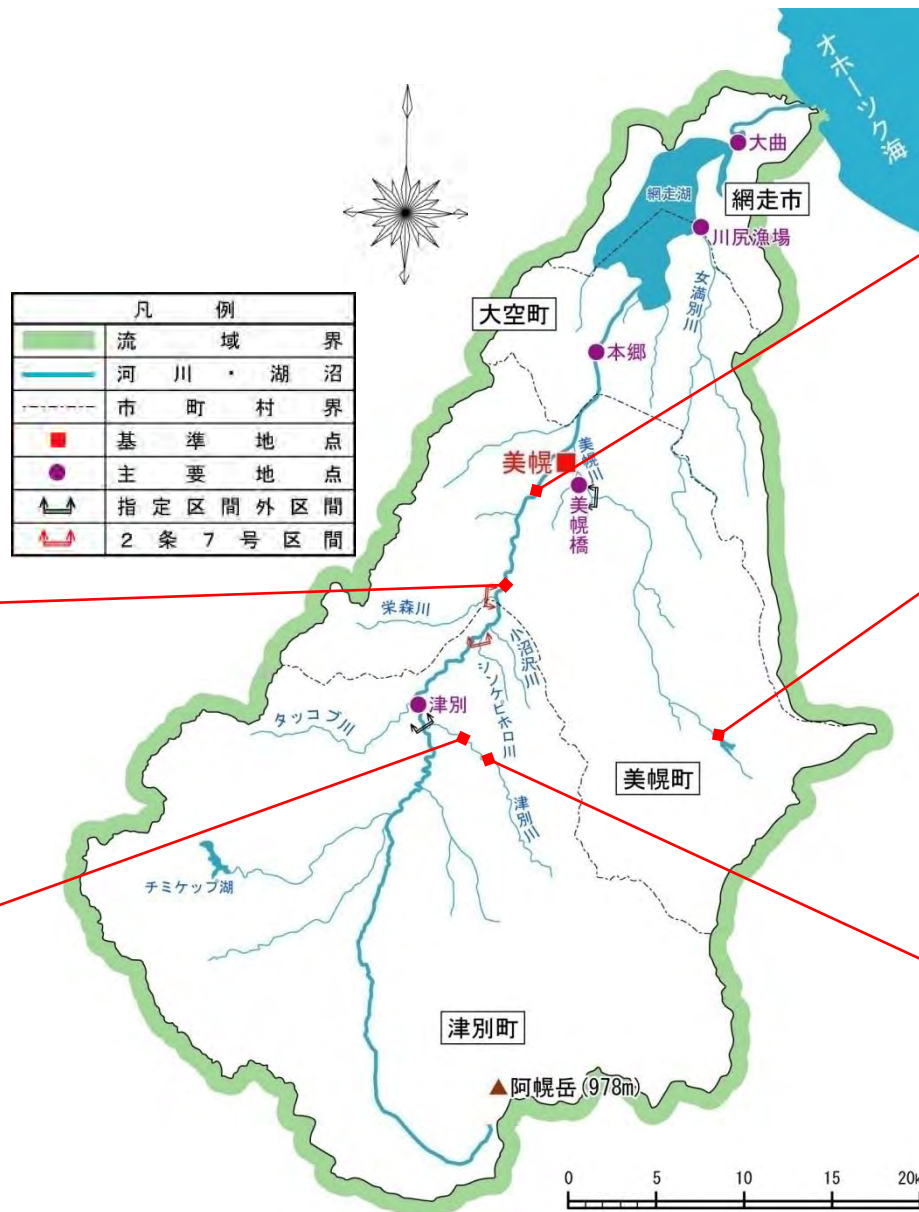
電力供給(300kw)を行う津別発電所



田畑(750ha)にかんがい用水を供給する西幹線頭首工

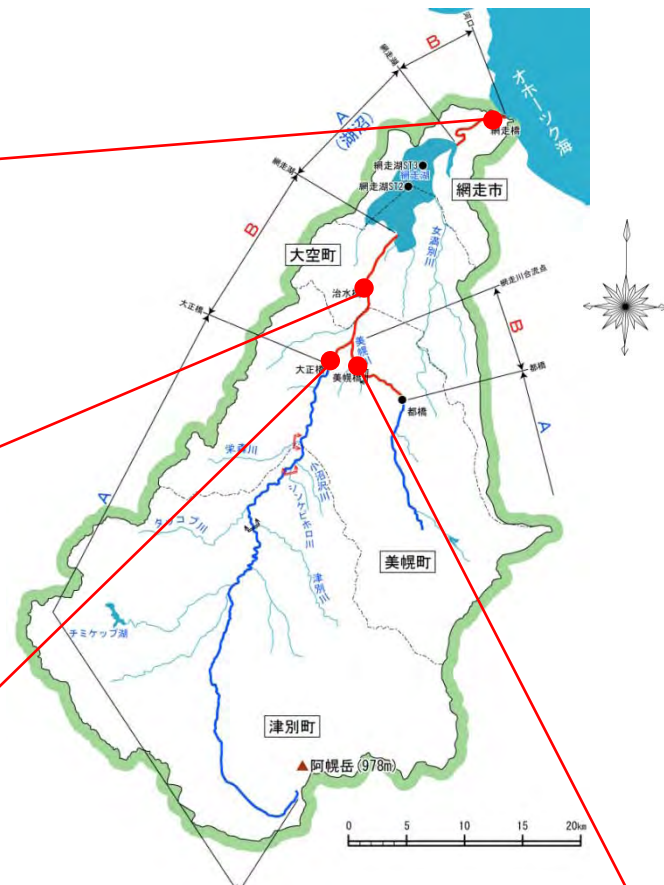
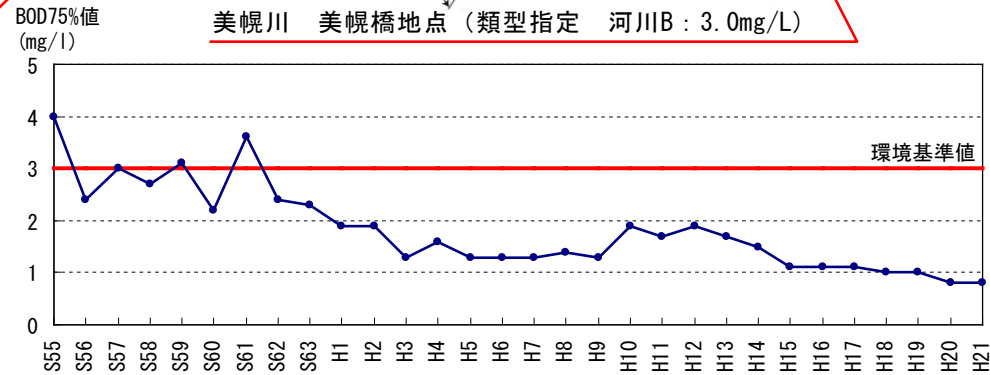
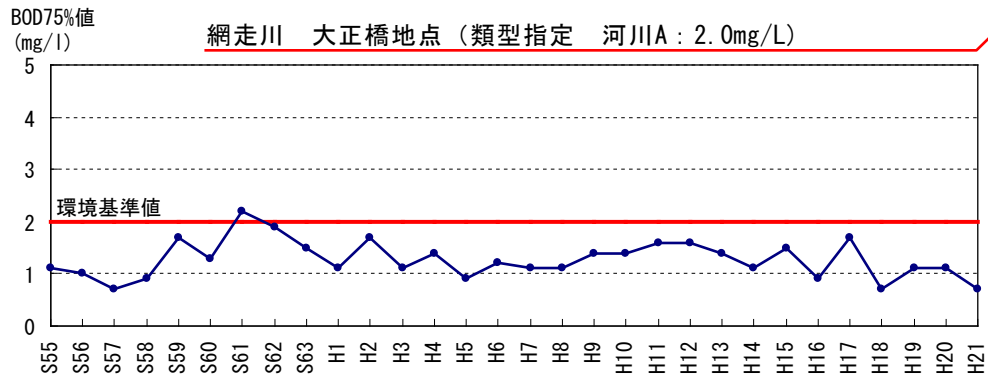
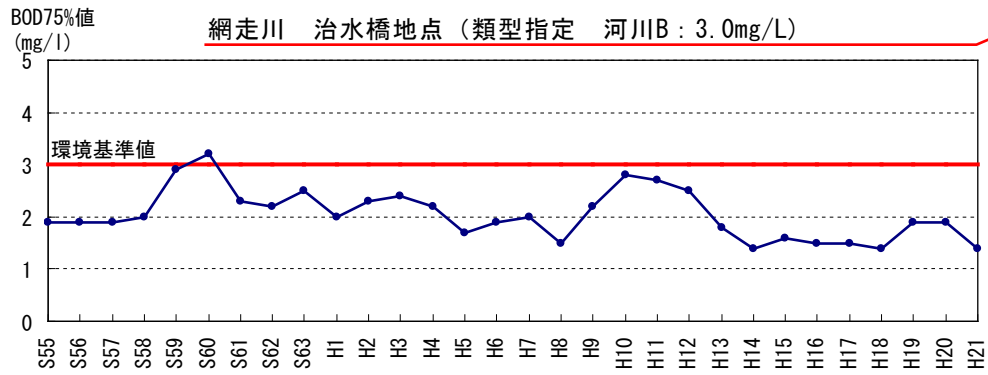
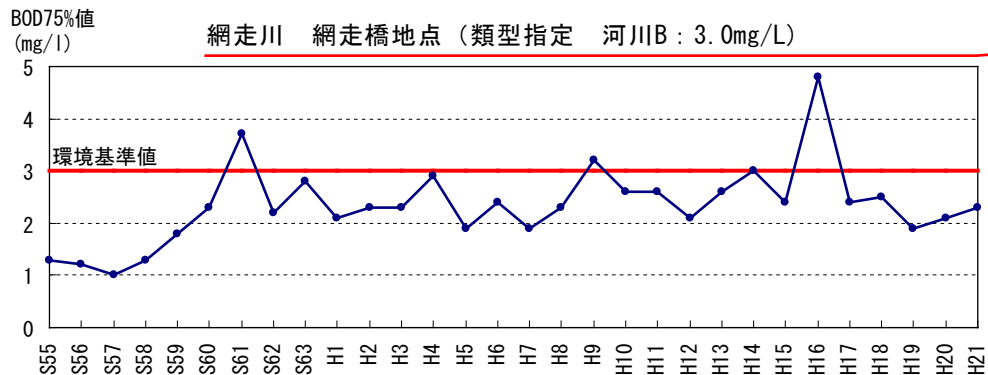


電力供給(700kw)を行う下津別発電所



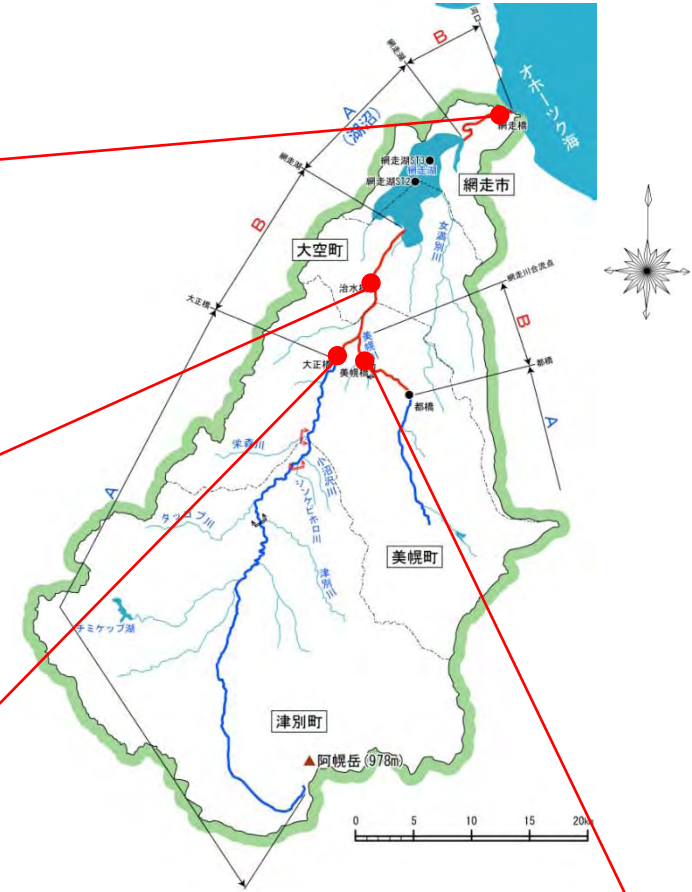
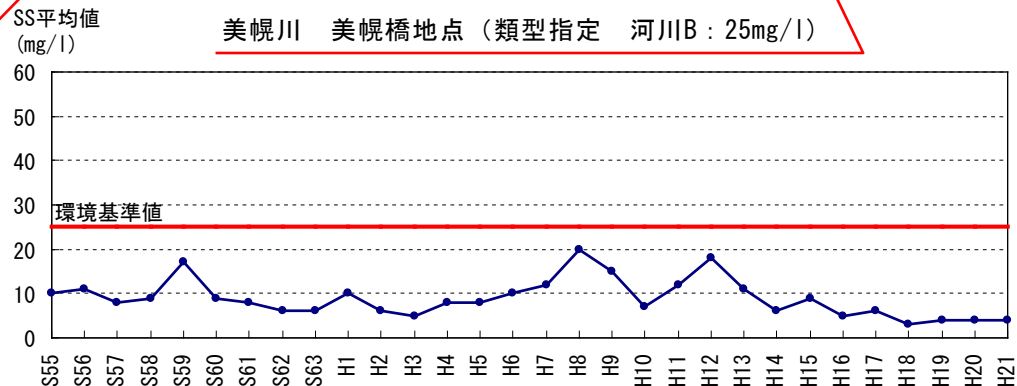
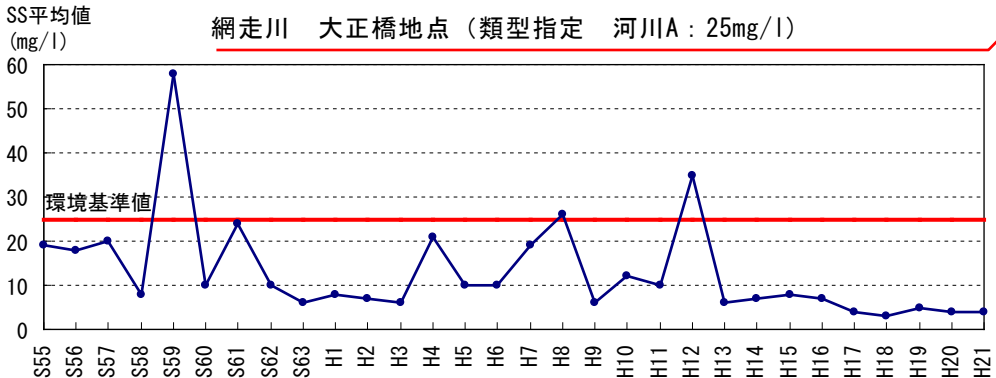
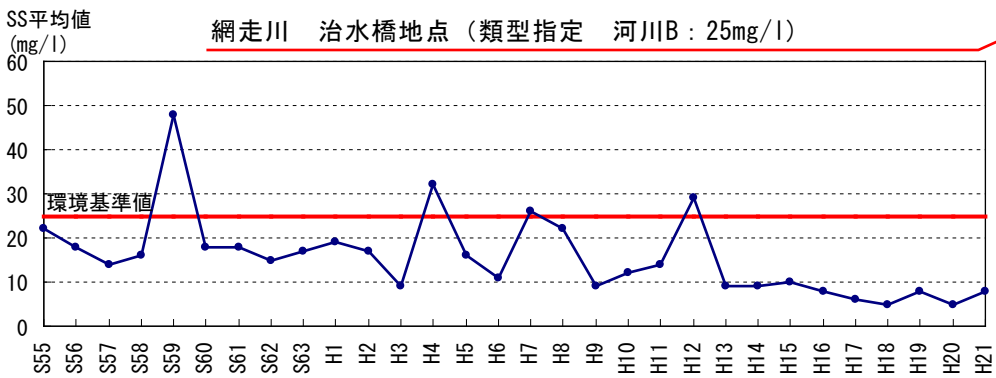
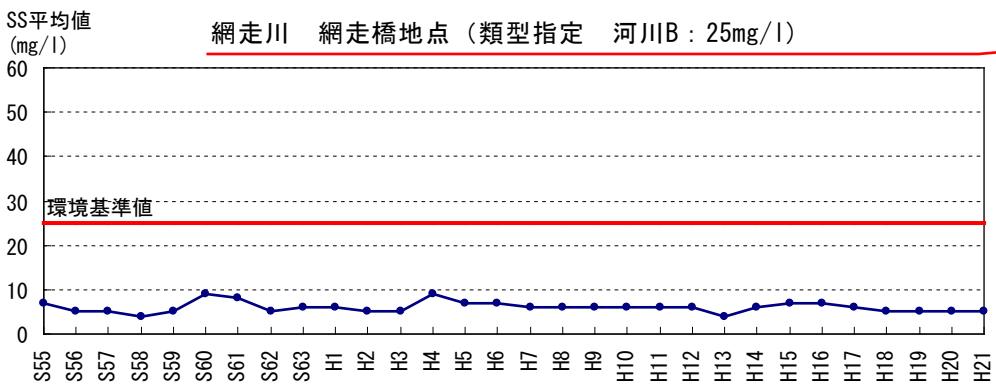
網走川の水質（BOD）

・ BOD75%値は、昭和62年以降、指定されている環境基準を概ね達成している。



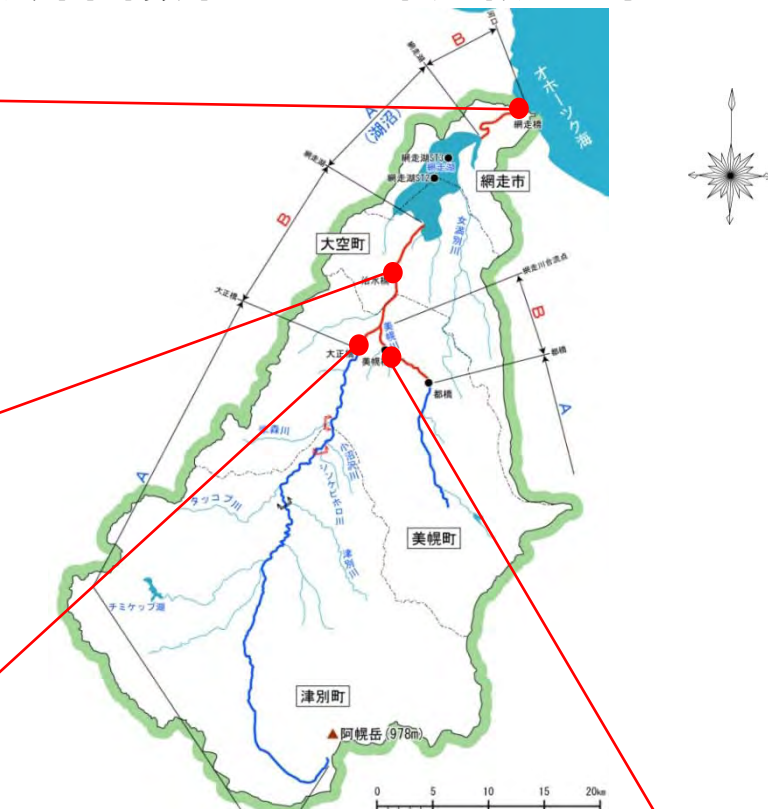
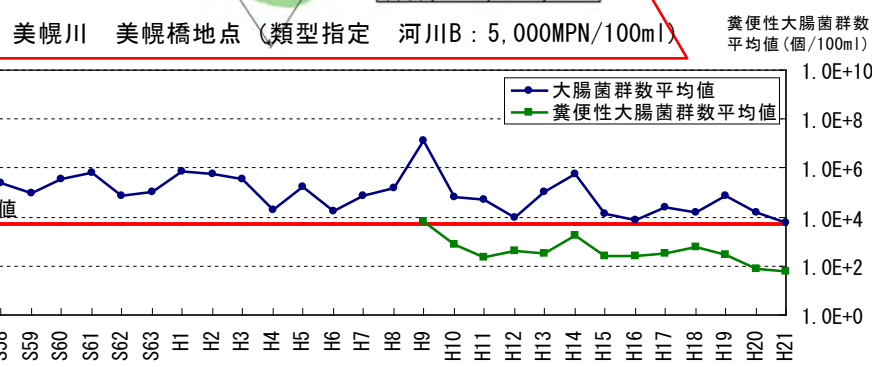
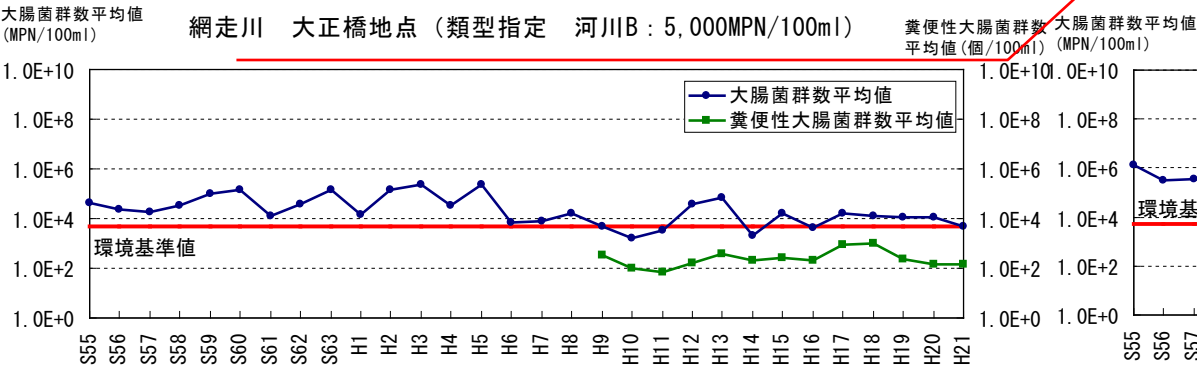
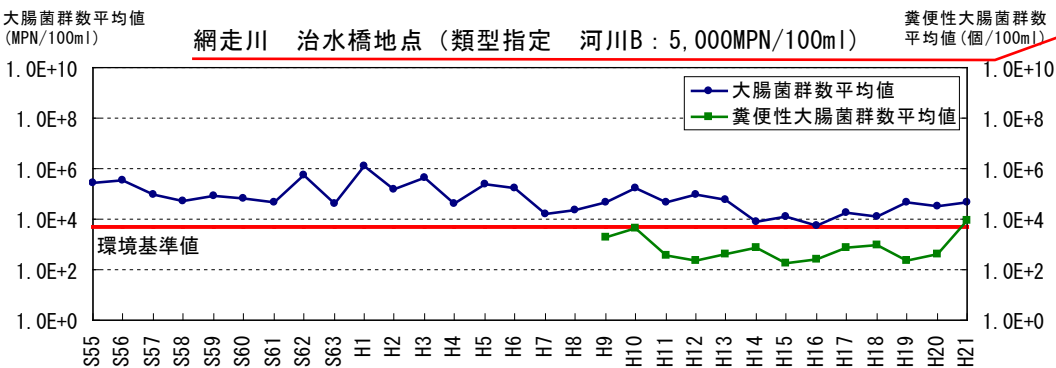
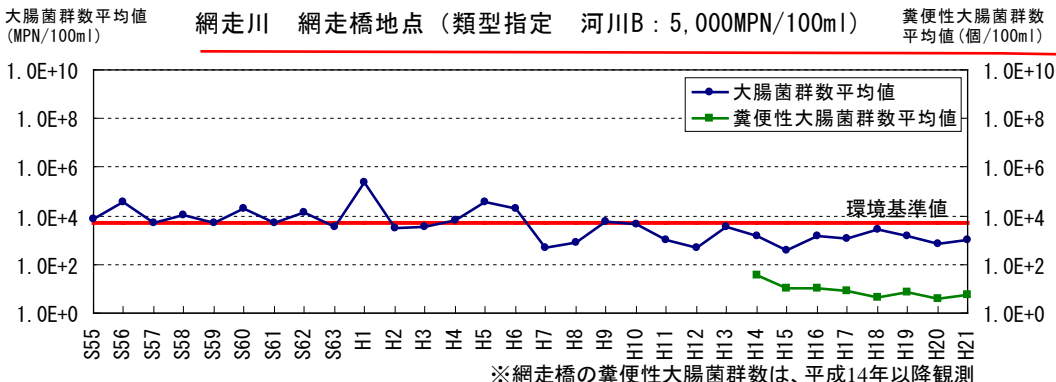
網走川の水質 (SS)

・SS平均値は、平成13年以降、全ての地点において指定されている環境基準を達成している。



網走川の水質（大腸菌群数・糞便性大腸菌群数）

- 大腸菌群数平均値は、網走橋地点を除き指定されている環境基準値を超過しているが、緩やかに改善している。
- 糞便性大腸菌群数平均値は、平成9年以降観測されており、大腸菌群数平均値と同様の傾向を示している。



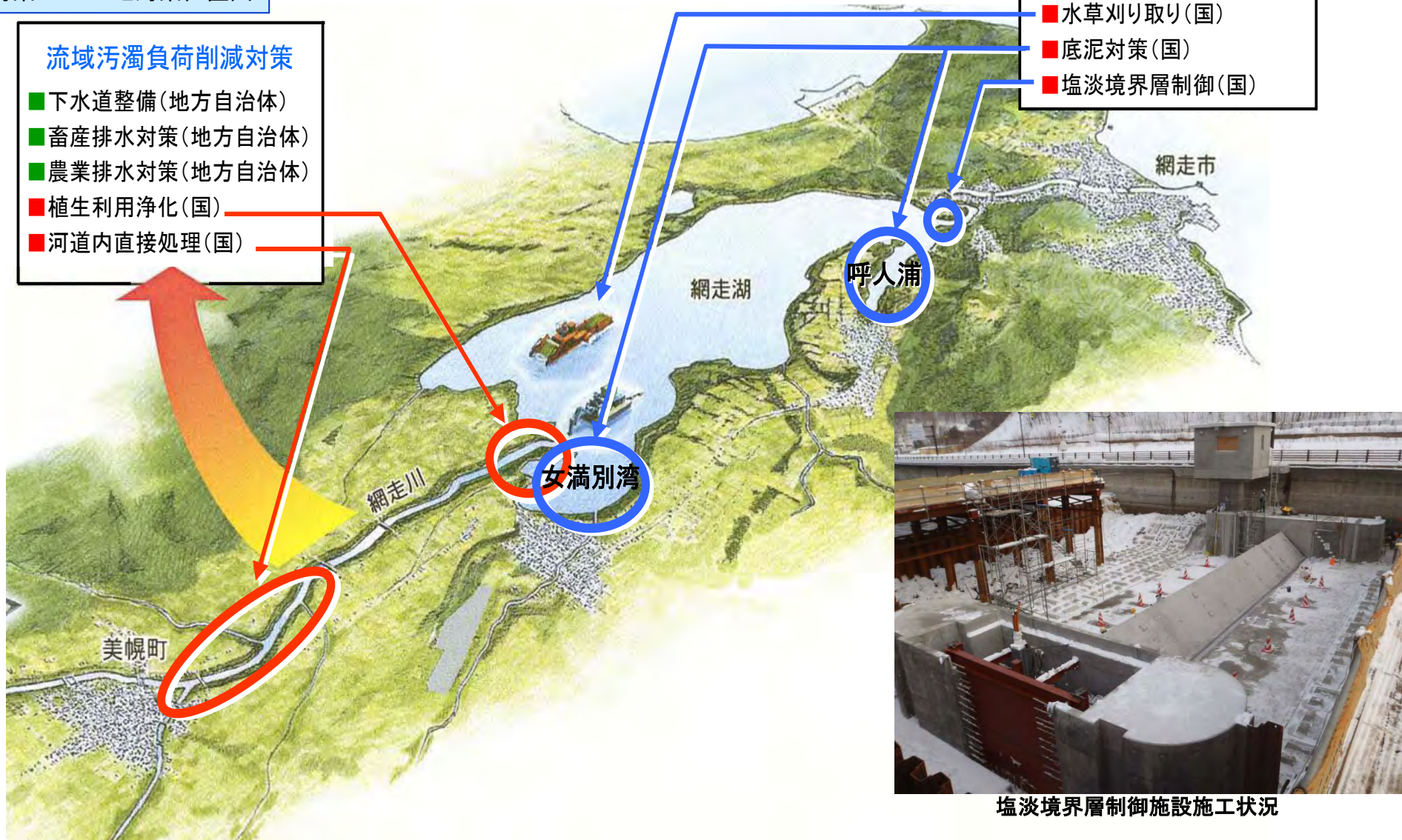
網走湖の水質改善事業と効果

- ・ 網走湖では、平成16年に水環境改善を目指し、河川管理者、関係機関等が協議し、清流ルネッサンスII (網走川水系網走川水環境改善緊急行動計画) を策定し、網走湖などの水質改善に取り組んでいる。

対策メニューと対策位置図

- 流域汚濁負荷削減対策**
- 下水道整備 (地方自治体)
 - 畜産排水対策 (地方自治体)
 - 農業排水対策 (地方自治体)
 - 植生利用浄化 (国)
 - 河道内直接処理 (国)

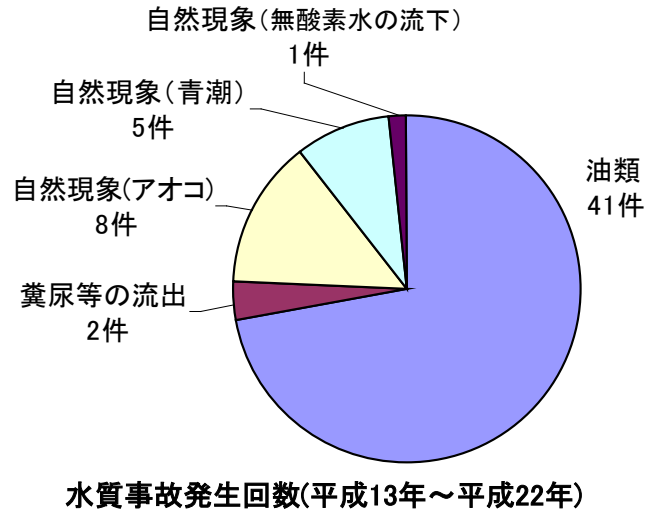
- 湖内負荷削減対策**
- 水草刈り取り (国)
 - 底泥対策 (国)
 - 塩淡水境界層制御 (国)



塩淡水境界層制御施設施工状況

網走川の水質事故について

- ・網走川では過去10年間に油流出等による水質事故が57回発生している。そのうち約7割は油類によるものである。
- ・その対応として、網走開発建設部管内では、毎年水質事故対策訓練及び水質事故防止の啓発活動を実施している。



平成23年度水質事故対策訓練の様子



平成23年度水質事故対策訓練の様子

～水質事故の未然防止にご協力を～

油や有害な物質が河川などへ流出すると、火災発生の危険性があることはもちろんのこと、魚が死んだり、農作物の被害を引き起こすことがありますので、水質事故を未然に防ぐ必要があります。

水質事故はどうやって起こるの？

水質事故の多くは、一般家庭、事業所、工場などの管理ミス、交通事故などにより流出した油や有害物質などを含む汚水が、雨水枡や道路側溝を通じて河川に流れ込んだり、不法投棄されることにより発生します。また、近くに河川がなくても雨水枡や道路側溝はどこかで河川につながっています。

油やベンキなどを含む汚水を絶対に流さないでください。

水質事故を未然に防ぐための注意点

- 燃料タンクや雨水側溝の点検をこまめに行う
※灯油などの燃料は、冬期間、暖房用燃料として多く使用される傾向があるほか、一年を通じて給湯用燃料として使用されています。
- 燃料や薬品などの捕給時には目を離さない
- 配管などの位置は事前にしっかりと確認する
- 燃料タンクや配管の腐食の有無を確認する
- あまったベンキや灯油などは雨水枡や道路側溝に流さない

はじめにすべきこと

自身(自社)が水質事故の原因となった場合には、何が原因かをいち早くつきとめ、次の事項を念頭に置きつつ、被害を最小限にとどめることが大切です。

- 原因を究明し、汚染の流出を止める(汚染の拡大防止)
- 被害者の救済や二次災害の防止を図る
- 敷地外への拡大防止(直近の道路側溝や水路などで流出をくい止め、拡大防止)
- 敷地外へ流出した場合には、汚染物の回収や除去。
- 有害物質などの場合は、必要に応じ周辺住民への注意喚起

油流出事故を起こした場合

油漏れなどで汚染が発生した場合、次の費用をすべて原因者に負担していただくことになります。

また、発見が遅れるほど被害は拡大し、場合によっては多額の負担をしなければならないこともあります。

- ①原因場所付近の土砂の入れ替えにかかる費用
- ②油で汚れた土砂の処分料及び処分場への運搬料
- ③原因場所から河川、海域へ至る道路側溝などの全区間の清掃
- ④オイルフェンス、油吸着マットの設置費用

※万が一、流出してしまったら被害を拡大させないため、速やかに近くの消防署、警察署、市役所などへご連絡ください。

問い合わせ／生活環境課環境対策係 (内線340・405)

あばしり | 6

出典: 広報あばしり(網走市)

広報誌等による水質事故防止の啓発

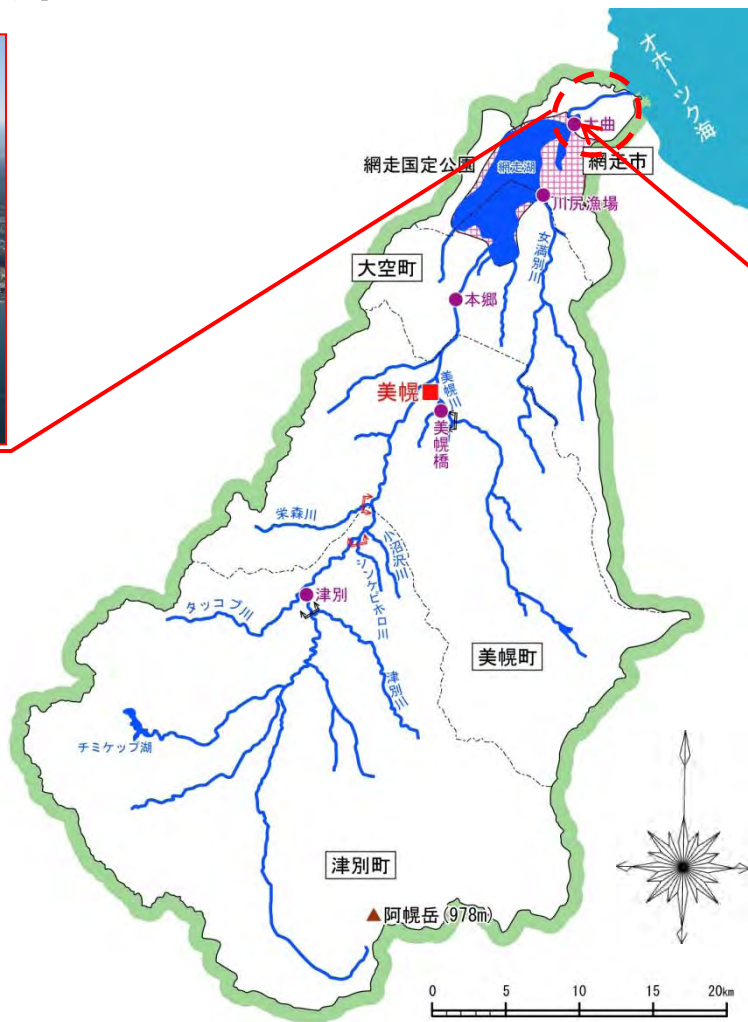
動植物の生息・生育状況（網走湖下流域）

【網走湖下流域（河口～網走湖流出口）】

- ・ 網走湖の流出口である大曲では、ヤチダモ、ハルニレ等の河畔林が分布している。
- ・ 鳥類は、オジロワシ、オオワシ等の希少な猛禽類が採餌のために飛来している。
- ・ 魚類は、サケ、ワカサギ等が遡上する。
- ・ ヤマトシジミが網走湖から網走川にかけて生息している。



河口から見た網走湖下流域



大曲のヤチダモ、ハルニレ等の河畔林



河畔林で休息するオオワシ



網走湖のヤマトシジミ

出典：網走市ホームページ

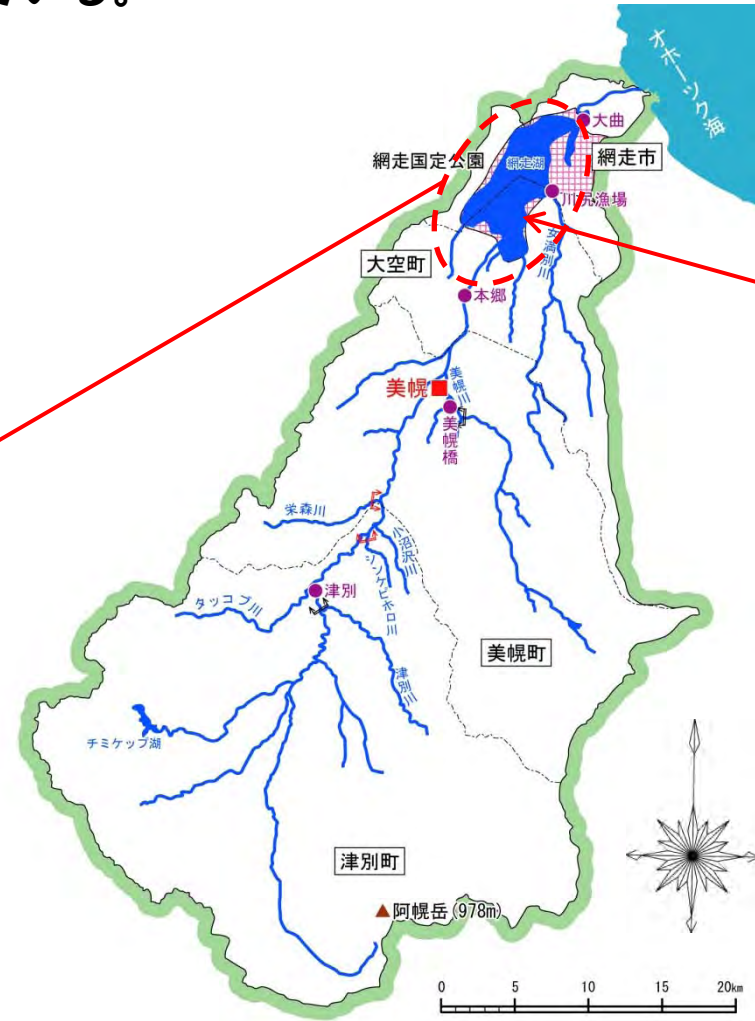
動植物の生息・生育状況（湖沼域）

【湖沼域（網走湖）】

- ・ 網走湖及び湖周辺は網走国定公園に指定されており、豊かな自然に囲まれている。
- ・ 女満別湖畔には天然記念物である湿生植物群落（ミズバショウ）が生息している。
- ・ 鳥類は、オジロワシが営巣し、オオワシ等の希少な猛禽類が採餌のために飛来するほか、湖畔にはアオサギの集団営巣地が確認されている。
- ・ 魚類は、ワカサギ等が生息している。



汽水湖である網走湖(面積約33km²)



網走湖付近の女満別湿生植物群落 (ミズバショウ)



湖畔のアオサギ集団営巣地



網走湖にはワカサギが生息

動植物の生息・生育状況（下流域）

【下流域（網走湖流入部～美幌川合流点付近）】

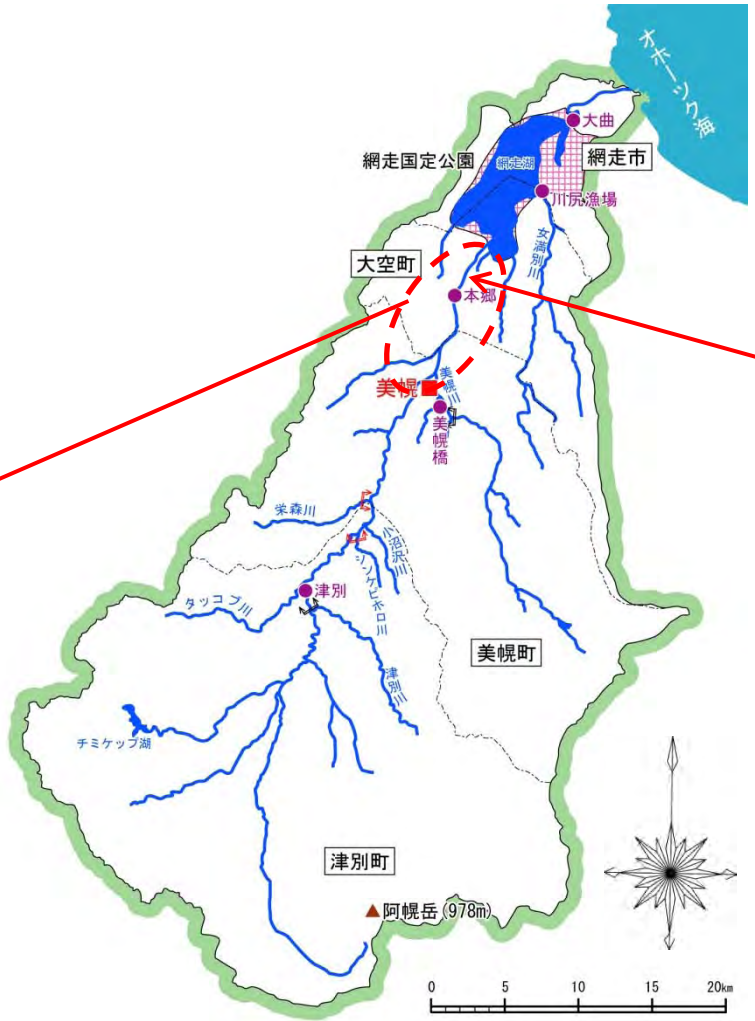
- ・ 網走湖流入部付近には、大規模なヨシ群落が生息しているほか、エゾノキヌヤナギ等を主体とする河岸林が生息している。
- ・ 鳥類は、オジロワシ、オオワシ等の希少な猛禽類が採餌のために飛来している。
- ・ 魚類は、サケ等が遡上するほか、ワカサギの産卵床等が確認されている。



網走湖の上流1km付近を流下する網走川下流域



網走川のサケの遡上状況



河岸から水面を覆うように繁茂するエゾノキヌヤナギの河岸林



ワカサギの遡上状況

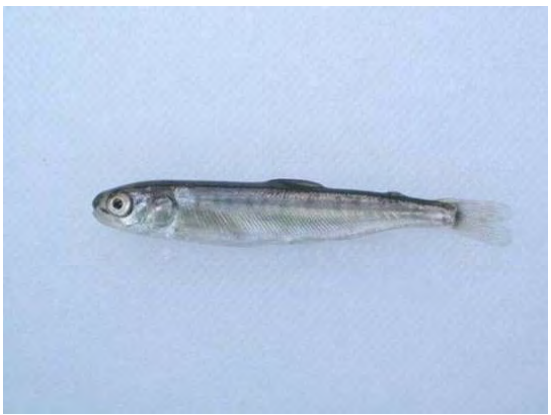
動植物の生息・生育状況（中流域）

【中流域（美幌川合流点付近～直轄上流端）】

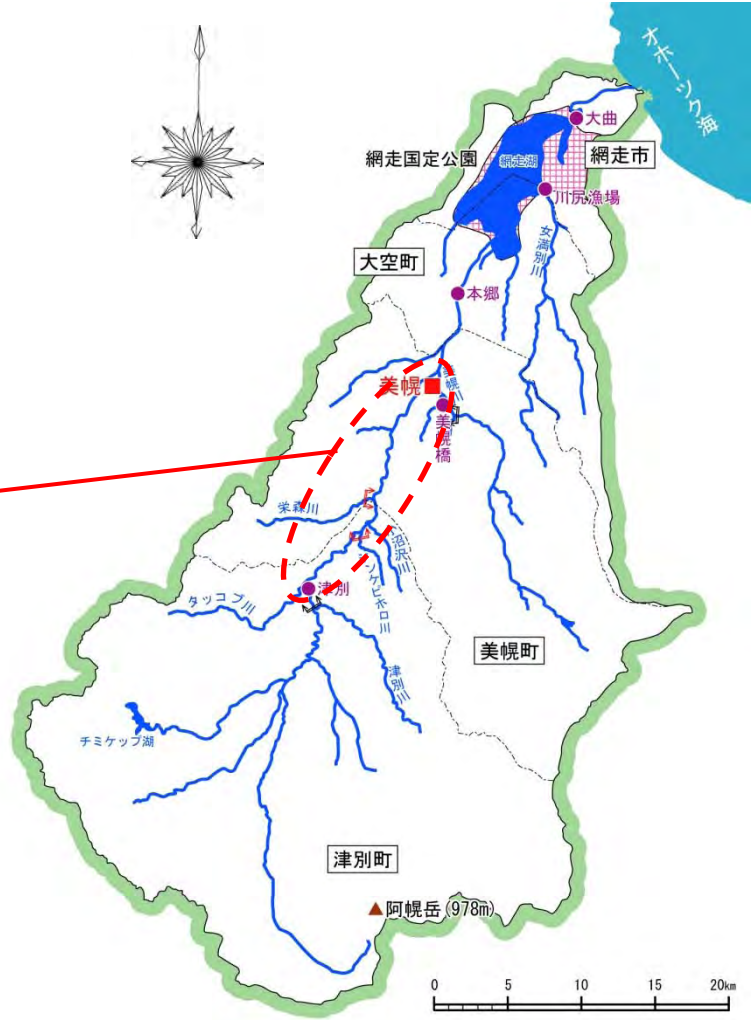
- ・ヤチダモ、ハルニレやエゾノキヌヤナギを主体とする河畔林が分布している。
- ・鳥類は、オジロワシ、オオワシ等の稀な猛禽類が採餌のために飛来している。
- ・魚類は、サケ等が遡上・産卵するほか、サクラマス（ヤマメ）が確認されている。



タッコブ川合流後を流下する網走川中流域



サケの稚魚(サケが遡上し産卵)



高水敷のヤチダモ、ハルニレ林の繁茂状況



飛翔するオジロワシ

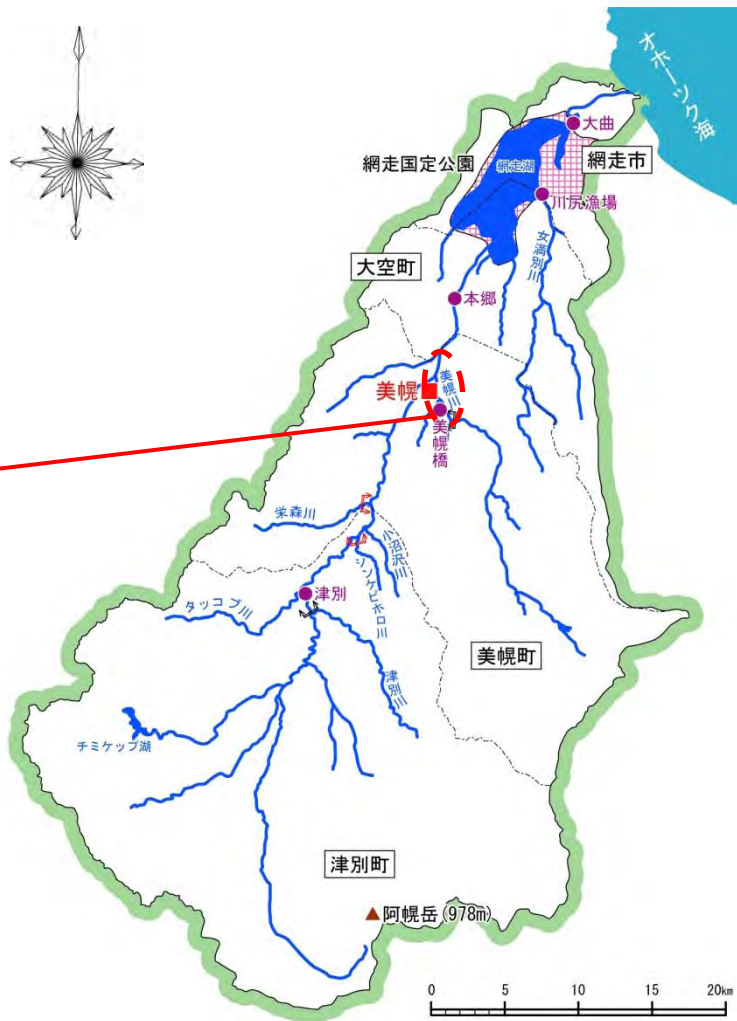
動植物の生息・生育状況（美幌川）

【美幌川】

- ・エゾノキヌヤナギを主体とする河畔林が分布している。
- ・鳥類は、オジロワシ、オオタカ等の希少な猛禽類が採餌のために飛来している。
- ・魚類は、サケ等が遡上するほか、サクラマス（ヤマメ）が確認されている。



美幌市街部を流下する美幌川



河岸にエゾノキヌヤナギが繁茂する



美幌川にはサクラマス(ヤマメ)が確認される



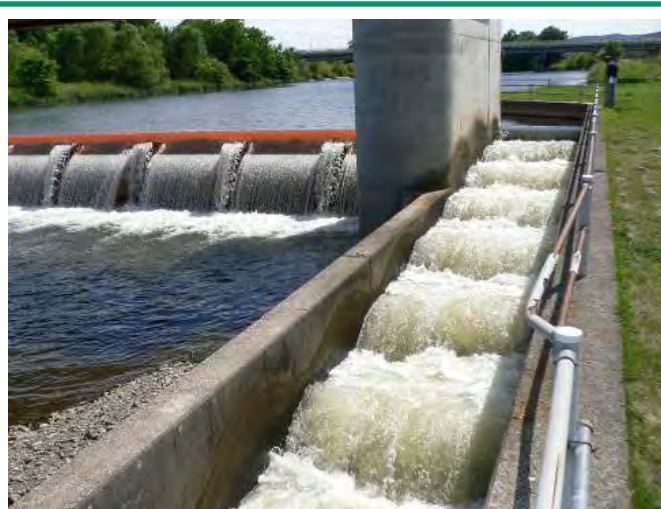
河畔林で休息するオジロワシ

魚類の遡上環境

- ・網走川はサケ、マス等が遡上している河川である。
- ・網走川本川では、東幹線頭首工（KP31.0）及び西幹線頭首工（KP38.5）の横断工作物が設置されている。これらの施設には、魚道が整備されている。



上流から見た東幹線頭首工



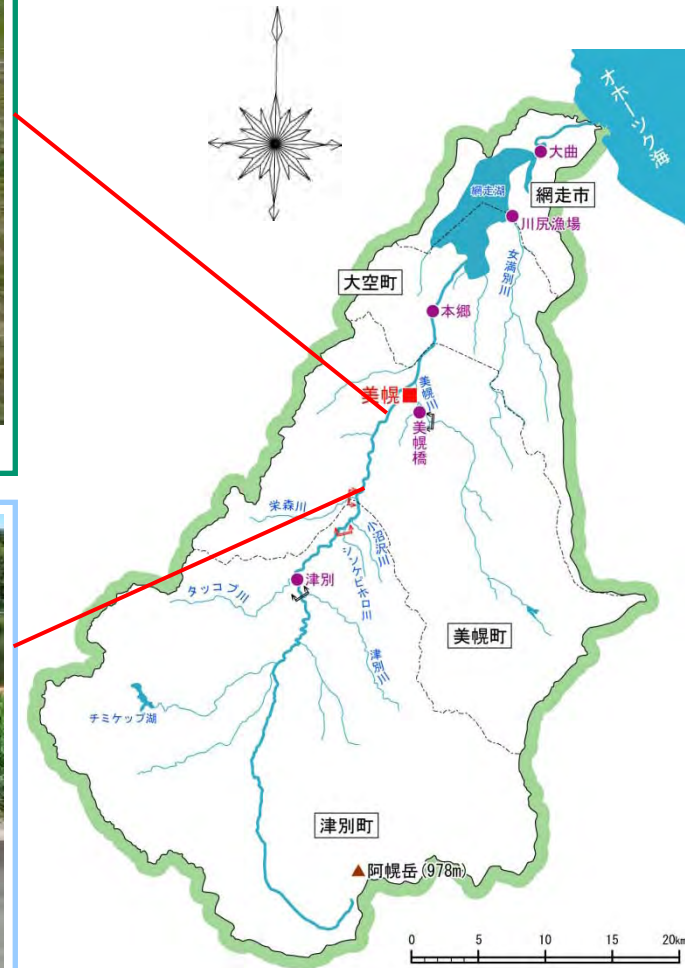
魚道の流下状況



下流から見た西幹線頭首工



魚道の流下状況



河川景観

・ 広大な畑地帯を蛇行しながら流れる中・下流域の河川景観、貴重かつ豊かな自然環境に囲まれた網走湖周辺の水辺景観、穏やかな水面と街並みが調和した網走市街地区間の水辺景観を望むことができる。



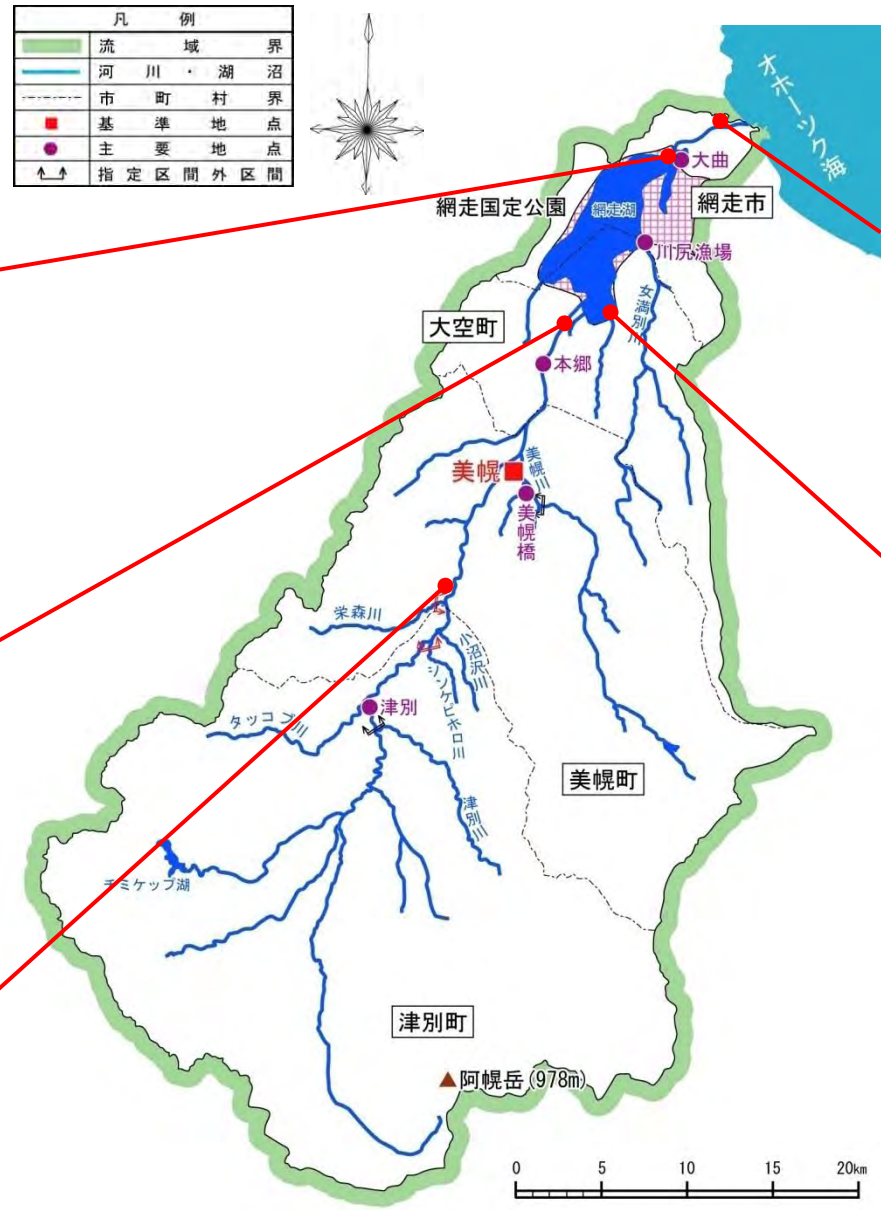
水面に覆い被さるように繁茂する大曲の河畔林



背後に耕作地が広がっている治水橋下流の眺望



背後に耕作地が広がっている上美幌橋下流の眺望



網走市街地の街並みを流れる水辺景観



夕日に染まる網走湖の水辺景観

河川空間の利用

- ・ 網走湖下流域では、河岸に水辺公園等が整備され、地域住民及び観光客に利用されている。
- ・ 大曲湖畔園地では、自然公園が整備され市民農園等に利用されている。
- ・ 国定公園である網走湖周辺は、キャンプ場や漕艇競技場が整備され、冬はワカサギ釣り等が行われている。
- ・ 下流域及び中流域の高水敷は、採草地として利用されている。
- ・ 中流域の美幌市街地付近の高水敷は、貴重なオープンスペースとして広場、公園緑地等多目的に利用されている。
- ・ 一方で、河川区域内へのゴミの不法投棄も見られる。



網走湖下流域の河岸の散策状況



水辺プラザで網走川とふれあう
市民(網走市)



大曲湖畔園地のひまわり畑



網走湖畔のキャンプ場の様子



夏に利用される呼人浦の
漕艇競技場(網走湖)



冬の網走湖でワカサギ釣り
をする様子



高水敷の美幌パークゴルフ場を
利用する市民(美幌町)



不法投棄ゴミの回収状況

- ・ 網走川には、サケ・ワカサギ等が遡上・産卵する他、網走湖にはヤマトシジミが生息していることから、遡上や生息、産卵環境の保全に配慮する必要がある。
- ・ 河岸にヤチダモ、ハルニレ、ヤナギ等が繁茂し、オジロワシ等の希少な猛禽類が採餌のために飛来し、豊かな自然環境となっている。このため、河道内樹木を洪水の安全な流下に支障とならない範囲で保全する必要がある。
- ・ 網走川及び美幌川の水質については、BOD75%値とSSは環境基準を概ね満足しているが、大腸菌群数は網走湖より上流の調査地点で環境基準を越えていることから、関係機関等と連携して水質改善に努める必要がある。また、網走湖の水質については、COD75%値とT-Pが基準を超過し、アオコや青潮も発生していることから、水質の改善が必要である。
- ・ 広大な畑地帯を流れる中・下流域の河川景観、貴重かつ豊かな自然環境に囲まれた網走湖周辺の水辺景観、穏やかな水面と街並みが調和した網走市街地区間の水辺景観の保全に努める必要がある。
- ・ 網走川はスポーツ施設や公園等として多くの人々に利用されており、今後も適切な管理を行う必要がある。また、ゴミが不法投棄されている実態も踏まえ、河川美化に向けた取り組みが必要である。
- ・ 特定外来種の新たな侵入や分布拡大により、在来生態系への大きな影響が生じる恐れがあるため、貴重種や外来種等を含む河川環境に関する情報を適切にモニタリングする必要がある。